

平和がいちばん

2013年9月15日
第75号
平和で豊かな枚方を
市民みんなで作る会



市役所出前講座「国民健康保険」9月4日(ひこばえ)

保護者への「授業アンケート」は教育を良くすることになるでしょうか

夏休み前、小学校の保護者全員に校長名でのアンケートが配られました。「本校の授業に関してお尋ねします。ご家庭でお話し合いの上、以下の設問に答えてください」と五つの問い。例えば「4. お子様は、授業は質問や発表などがしやすい雰囲気だと感じていますか」について、子供の受け持ちの先生ごとにくそう思う・だいたいそう思う・あまり思わない・思わない・分からないの五つから一つを選ぶというものです。マークシート方式で、用紙には児童名がすでに印刷してあり、回答は密封して学校長に提出することとされています。

私たちはこのアンケートが教育を良くすることにつながるとは思いません。まず保護者は教室での実態はわからず無責任な回答になってしまうという不安を持ちます。子どもは先生に対していろんな思いを持っていますが、その感情を一つひとつ大切にしていくのが情操を育てることです。感じたいろんなことを五者択一で決めろというのは教育ではありません。次の問題点はこのアンケートが担任の頭越しに

校長に回答するという点です。担任に対しては匿名での回答になり、匿名による無責任性を増幅させ、担任と保護者の間に溝を設けることとなります。授業の改善にはつながらず、子供・親・先生のいずれにとってもプラスにはなりません。あわせて校長の責任放棄です。保護者のマークシートでの集計に基づいて評価を行うなどというのは管理職失格です。なおこの「評価」システムは先生たちの昇任や昇給の重要な資料になりますが、その「活用」にも私たちは反対です。

学校現場で先生達に仕事が増え、一方で管理強化が進んでいます。そして教員の人数の不足も深刻です。その犠牲者は児童生徒です。常に競争に追い立てられる生徒の気持ちは揺れています。点数のみで評価が決まり、勝者敗者が確定させられています。心のザラツキはかつてより溝が深くなっているのでしょうか。しかし彼らにかかわる先生達も激務。多忙と疲弊で「イジメのサインを見落としているのかも」と自省する教師もいます。先生の人数を増やし、きっちり確保し、少人数の学級にしていくことが学校現場の喫緊の課題です。

わわわのわ

放射能は遺伝子を壊します 放射能
に汚染された食べ物は避けましょう

生協活動でつないできた人の輪をさらに広げる

真下 時子さん



(9月5日・ご自宅前にて)

真下さんの母親は明治生まれで京都出身。煮魚が多く、薄味で素材を活かした昔ながらのおかずが子供の頃の食卓風景。今でも兄弟が「おふくろの味」というのが、さばの“船場汁”。大阪の間屋街の船場汁と言え、魚と大根などの野菜を煮込む具たくさんの汁で、魚は頭や中骨などアラまで使い無駄がない。時間をかけず、安価で栄養価もある。真下さんが育った家庭のそれは、鯖の身を使った残りのあらと大根で澄まし汁にしたものだった。それが真下さんの「食」の原点のようだ。

彼女が生協活動を始めたのは、子供が幼稚園の頃に隣の人から大阪東部生協に誘われたのがきっかけ。例えば、添加物の含まれたソーセージと無添加のものを食べ比べると無添加のほうがおいしかった。見た目では市販のものが悪いかどうかは分からないが、「味を第一」に考えた。野菜は「枚方食品公害と健康を考える会」を利用していた。その地場の野菜もおいしかった。家族の「おいしい」という言葉に納得を重ね、約30年間も生協に関わってきた。

その当時は、枚方市の公民館の活動が活発で、無料で会議室が利用でき、共同購入の友人とさまざまな社会的な学習会を行ない人のつながりも広がった。本間都さんの水問題、被差別部落問題等。当時の楠葉公民館の館長は渡辺義彦さん。教育長は家高憲三さん。枚方市の企画としていまでも続いている『生きることについて』の講座、沖縄の陶芸家金城実さんを招くなど社会教育が大切にされていた。

生協（現在、生活クラブ）の取り組みには生産者との交流が大切にされている。生産者の話を聞くと「安全な食」に対する意欲が沸き、生産者も食べる人の「おいしい」という声で励まされる。泉州のタマネギや信州のりんごの生産者との交流を思い出すという。また、滋賀県の鶏肉の生産者の「鶏を健康に育てることが人にとっての安全につながる」との言葉が心に残っ

ている。その考え方は「健康を維持するには、悪い菌を殺すことに力をいれるよりは良い菌を増やし、悪い菌の働きを抑え共存することが大切」だと言う。しかし「いま問題になっている放射能は別。避けるしかない。チェルノブイリの事故後に、反原発の講演で久米三四郎さんに画像で遺伝子記号のXやYで説明を受け、放射能は遺伝子を壊す恐ろしいものと知った。福島原発の放射能汚染水が問題になっているので、魚が食卓から去っていくかもしれない」と残念そうに語っている。

彼女は、「手作りは、素材を選べばいいので安心度が増える。加工すればするほど、知らない産地のものや添加物が入るなど自分で確かめることができない部分が多くなる。手作りはそんなにじゃまなくさくない。若い人に少しでも伝えられたら」とも語っている。生協の組合員活動、役員、事務局を務め、今春退任した。生協活動で、文章をまとめることや会議を運営する訓練がされた、とのこと。そして、貸借対照表等を理解しながら「事業経営」を見るなど社会の見方も明確になってきた。彼女の「1千兆円もの借金を抱えている日本国の姿勢はおかしい」と、ストレートに語る言葉に共感する。

50歳台に生協活動をしながら母親を家庭で介護し続けた。その時、気分転換ではじめた水泳を今も続けている。「今後のことは、今から考える。今は休養中、充電中かな」と語る真下さん。同世代として教えられることが多い。

取材・文 おおた幸世

—憲法学習会へのお誘い—

集团的自衛権行使は「合憲」か？

9月28日(土) 13時30分開始

サンプラザ生涯学習市民センター5階

視聴覚室〔京阪「枚方市駅」下車徒歩3分〕

参加費：300円

講師 豆多敏紀さん(平和と生活をむすぶ会)

私が“原発ゼロ”を必ず実現したい理由

松永 勝子

福島原発事故の直後、日本熊森協会が出した資料文に衝撃を受けました。

その文は、元・原発建設現場監督の故平井憲夫氏（1997年逝去）が書いたものです。18年前の阪神大震災の時、横倒しになった高速道路と原発との共通点の多さに考えさせられ、震災の翌年（1996年）に執筆したそうです。

「私は、反対運動家ではありません」から始まり、「原発とはこういうものですよ」と、現場にいた者しか書けない話・事実が書かれています。

小見出しをあげると、*安全は机上の話 *素人が作る原発 *名ばかりの検査・検査員 *いい加減な原発耐震設計 *放射能垂れ流しの海 *廃炉も解体も出来ない原発（閉鎖して管理するしかない）…etc.

平易で分かりやすく、中学生前後でも読める、一読の値打ちのある文です。

この平井氏の文を皮切りに、色々な情報を得て、更なる驚きの事実を沢山知りました。

◇福島第一原発が、20年間で出した放射能は、広島原爆の9万発分に相当する。

◇近年、30年間のM5以上の地震の回数は、ドイツで2回、アメリカは322回、日本は3954回。

◇国連の世界保健機構が、原発事故による病気は 甲状腺癌と白血病の2種しか認定しないと決定。（世界の経済界の札束攻勢に屈した結果）

◇その裏で、チェルノブイリ被爆者の治療を続けてきた医師が、データをもとに、目や心臓なども悪くなると発表したところ、無実の罪で投獄された。

◇大阪では、福島瓦礫の焼却に反対行動していた人が、無実の罪で逮捕・勾留された。

◇大手スポンサーの電力会社に、マスコミがコントロールされ、原発の負の情報を国民に知られない様になっている。

◇極めつけは、不景気打開策として、原発を輸出する『死の商人』と化した政府・首相。不景気打開策と称して、大陸進出し戦争した様に…etc.

これら全てが、恐ろしい事実。

私には、時代が逆行を始めているとしか思えません。

確かにお金も大事です。でも、命の方が、絶対にもっと大事です。

私達人間も、自然の一部と自覚し、自然と共生する生活・生きるに必要なものだけ求める他の動物の様に、欲張らない生活に切り替えていくべきだと思えて仕方ありません。

原発の問題に比べると、他の問題がどれも小さく思えます。

水と空気と緑の星。宇宙船・地球号は、日本の原発で、今、難破しかけています。

未来の子供達に、これ以上、大きな負の遺産を渡さぬよう、直ぐ原発をゼロ（閉鎖）にしましょう！

全国 100万人の 署名をめぐしています

どこでも 誰にでも 放射能健康診断の実施を

国と東京電力の責任で無償で行うよう求めています。

ご家族の皆様、ご近所の方々、ご友人お知り合いの皆様にごひろげて下さい。署名用紙は、スタッフへの手渡し、か、「市民の会」への郵送・FAXなどをお願いします。

集約する日：10月15日（第一次分）



8月6日 社会保障国民会議報告が公表された 報告は「国民の生活は自らが働いて自らの生活を支え、自らの健康は自らが維持する」という「自助」をことさらに強調する。一見当たり前のように思えるが、「憲法 25 条 2 項一国はすべての生活部面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない」の精神に反し公的保障の解体を進めるものだ。介護保険では、軽度（要支援 1・2）の方の予防給付を介護保険からはずし、市町村に丸投げする。国の責任を軽減し介護保険給付費を削減することが目的だ。社会保障の新たな財源は必要だが、消費税増税しかないとの主張は支持できない。まず所得税などの最高税率を上げること。軍事費や不用な大型公共事業を見直すことで財源を生み出すことができる。

8月20日 「福島の子供たち 43 人に甲状腺がん・または疑いがある。原発事故の影響は考えられない」と福島県が発表 しかし通常の発症率の数十倍だ。原発事故の影響と考えるのが常識だ。福島原発の汚染水は希釈して海に流すしかない規制委員会が言い出した。原発事故は収束するどころか、健康破壊、環境汚染は深刻だ。9月15日、大飯原発4号機が止まり全ての原発が止まる。再稼動を許さない取り組みを強めよう。

8月23日 大阪保育研究所主催の「子ども子そだて新制度議員研修会」に参加 新制度で導入された「認定こども園」では、親が施設と直接入所契約する。保育所探しも自己責任。必要な子どもに保育所入所を保障する自治体責任はどこに行ったのか。待機児解消のためにも公的責任の後退を食い止めたい。

8月28日 厚生委員協議会 枚方市新型インフルエンザ等対策行動計画の策定について提案された。法律で枚方市でも策定が義務付けられた。科学的根拠も示さずに、大阪府で人口の4分の1が発症し1万人を超える死者が出るとの想定。市民へのワクチン接種などを検討すること。新型だから何型が流行るか分からないし、ワクチンは新型が流行ってから製造される。これでは間に合わない。事後の計画よりも、マスク・うがい・手洗いなど日常生活でできる予防を徹底すべきだと発言した。

9月4日 シリアへ軍事攻撃をするなどのアメリカ領事館前の抗議行動に参加 オバマ米大統領は、シリア政府が化学兵器を使用したと断定し、シリアへの軍事攻撃を行う姿勢を明らかにした。また、安倍首相も「アサド政権が化学兵器を使用した可能性が強い」と根拠も示さず断定し、米のシリア攻撃支持を明かにした。米のイラク攻撃はありもしない大量破壊兵器の保持を理由に行われ、多くの市民を殺している。国際法上、米政府にシリアを軍事攻撃する権利はない。西部劇の無法者のやり方だ。国際法に基づいて平和的に解決しなければならない。英国議会は介入案を否決した。シリアへの軍事攻撃NOの声を上げよう。

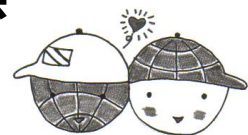


情報公開を請求（コンプライアンス課）9月2日

8月19日 8月分議員報酬より 223,880 円を大阪法務局に供託

平和で豊かな枚方を市民みんなで作る会

- 共同代表 松本 健男（弁護士）
 家高 憲三（元教育長）
 黒田 薫（平和都市ひらかたを考える市民の会）
 鈴木めぐみ（親と子のリズム遊び講師）
 おおた幸世（枚方市平和無防備条例を実現する会）
 事務局長 手塚 隆寛（枚方市会議員）



「会」のシンボルマーク
塔本賢一さん作

〒573-1197 枚方市禁野本町 1-5-15-106 市民の広場 “ひこばえ”

Tel & Fax 072-849-1545

毎月の配布を希望される方、または配布を希望されない方はお手数ですがご連絡ください。